



シグマ光機株式会社

証券コード：7713

第50期中間報告書

2024年6月1日 ▶ 2024年11月30日



Contents

株主の皆様へ

中間期のセグメント別概況(連結)

中間業績(連結)

2025年5月期業績見通し(連結)

Topics

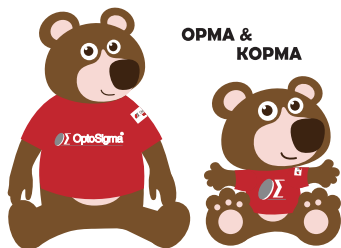
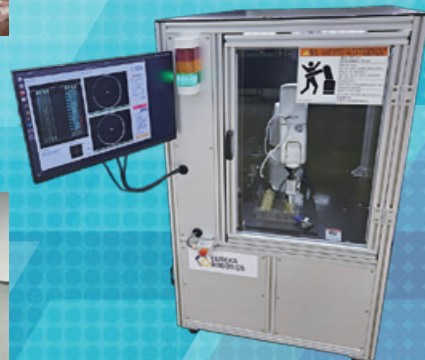
新製品紹介 反射防止膜付シリーズ — SLB-BB/WBMA-BB

サステナビリティ活動

株主様アンケート結果のご報告

連結財務諸表

株式の状況/会社概要



OPMA &
KOPMA

Light Solutions for Life®

光なら、きっとできる。

 OptoSigma®

経営理念

我社は光産業を通じ、社会に貢献します。



「感謝」「挑戦」「創出」 Light Solutions for Life®

光技術を通じて社会課題解決に取り組み、持続可能な社会の実現を目指します。

「我社は光産業を通じ、社会に貢献します。」という経営理念の下、長期的な視点に基づく企業風土への変革・実践（Great Reset）に向けて、「成長戦略」、「ビジネスモデル変革」、「事業継承・中核人材育成」、「社会貢献」の4つを重点戦略とする「中期経営方針」を推進しております。人材面では、人事評価制度の改正、就業制度の見直し、IT活用、オリジナル研修等を推進し、設備面では、国内各工場の増築及びリノベーションが完了し、高精度設備の導入等が進みました。反面、人的投資及び新工場の稼働開始による減価償却費等が増加いたしました。製品ポートフォリオの改善や製品価格の見直しの効果等により、当事業年度における営業利益及び親会社株主に帰属する当期純利益は前年同期比で増加を見込んでおります。今後も、株主の皆様のご期待に応えられるよう、安定的な株主還元に努めるとともに、企業価値の向上の早期実現に挑戦してまいります。株主の皆様におかれましては、今後も格別のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

シグマ光機株式会社

代表取締役社長 近藤 洋介

中間期のセグメント別概況（連結）

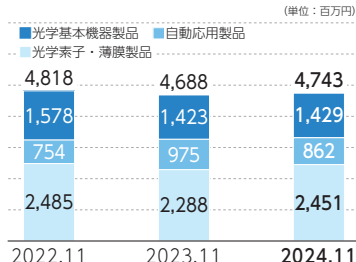
▶ 要素部品事業

売上高



1.2%増

（前年同期比
54百万円増）



POINT

バイオ業界向けは軟調も半導体業界向け等は堅調

光学基本機器製品は国内向けの産業分野の他、米国及び中国地域向けが緩やかな回復基調で推移いたしました。自動応用製品はバイオ業界向けの組み込み用途の大口案件が軟調に推移いたしました。光学素子・薄膜製品は、国内を中心とした電子部品・半導体業界向けの加工装置への組み込み用途が堅調に推移し、海外向けも緩やかな回復基調で推移いたしました。

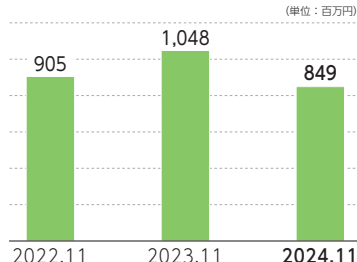
▶ システム製品事業

売上高



19.0%減

（前年同期比
1億99百万円減）



POINT

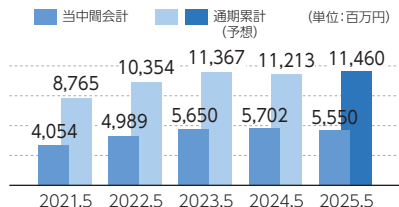
医療業界向けは好調もFPD業界向けは低調

医療業界向けは受託製造の大型装置の納品が進み好調に推移いたしました。フラットパネルディスプレイ業界向けや電子部品・半導体業界向けの製造装置・検査装置への組み込み用途の光学ユニット製品・光学システム製品は、低調に推移いたしました。エリア別では中国地域向けの需要は回復基調で推移いたしました。当セグメント全体では国内を中心に軟調で推移いたしました。

中間業績（連結）

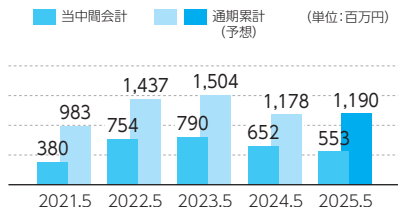
売上高 55億50百万円

（前年同期比 2.7%減）



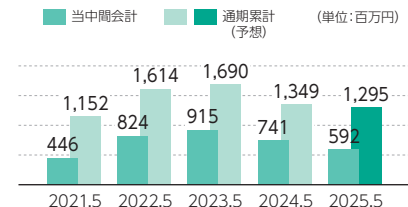
営業利益 5億53百万円

（前年同期比 15.2%減）

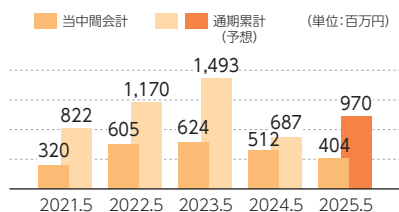


経常利益 5億92百万円

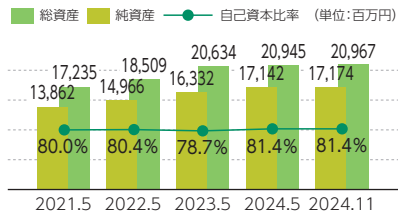
（前年同期比 20.0%減）



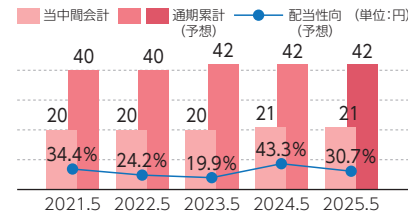
親会社株主に帰属する中間(当期)純利益
4億4百万円 （前年同期比 21.1%減）



総資産・純資産・自己資本比率



配当金、配当性向



2025年5月期業績見通し（連結）

最近の業績動向を踏まえ、業績予想を修正しました。

売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	配当額（通期累計）
11,460 百万円 (前期比 2.2%増)	1,190 百万円 (前期比 1.0%増)	1,295 百万円 (前期比 4.0%減)	970 百万円 (前期比 41.1%増)	42 円 配当性向(見通し)30.7%

売上高

- 半導体業界&海外地域で持ち直しの動き
- 世界経済の不透明感が増しており、今期中の本格的な回復には至らない見通し

営業利益

- 人的投資及び減価償却費等が増加
- 製品ポートフォリオの改善
- 製品価格の見直しの効果等

経常利益

- 営業外収益を特別利益へ計上科目変更

親会社株主に帰属する当期純利益

- 昨年度の災害による特別損失からの反動
- 期初見込んでいた特別損失（修繕費）の削減

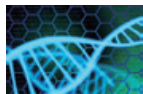
●主要マーケット



学術・研究機関



半導体・電子部品



医療・バイオ



通信等

●重点施策

販売強化

- カスタム製品（特注品）&OEM製品
有力成長市場への提案型営業展開を強化等
- カタログ製品（規格品）
製品価格見直しとオンライン販促活動の推進等
- 海外マーケット
グローバル・ブランド「OptoSigma®」の認知度向上等

製品ラインナップ強化

- 製品開発力
最先端の光技術に関する知の融合等
- ものづくり力
高精度加工設備・検査設備の導入
継続的な生産性向上等

Topics 新製品紹介 反射防止膜付シリーズ — SLB-BB/WBMA-BB



◀SLB-BB
球面両凸レンズ（左）
WBMA-BB
窓（右）

▼広帯域反射防止膜コートを付けた製品をカタログ品化！

広帯域の波長（400～1600nm）において、光の透過率が平均96.5%以上となる多層反射防止膜付きの球面両凸レンズ^{※1}（SLB-BB）及び窓^{※2}（WBMA-BB）をラインナップしました。ノーコート品（反射防止膜無し）では、製品表面での反射による損失等により、透過率が90%程度となります。従来は特注品として対応していましたが、産業分野からの需要増加等を背景に、カタログ品としてラインナップしました。今後も、お客様が「欲しいもの」をすぐにお買い求めいただき易くするために、細分化された製品仕様等のご要望に対応した製品ラインナップの拡充を進めていきます。

- ※1 球面両凸レンズ：狭いスペースで効率よく光を屈折させ、光を多く集められる光学製品です。光を短い距離で集光させたい時に使用します。
- ※2 窓：光を透過する平らな光学製品です。真空容器や隔壁の反対側に光を通す場合に使用します。

詳細はこちらもご参照ください。

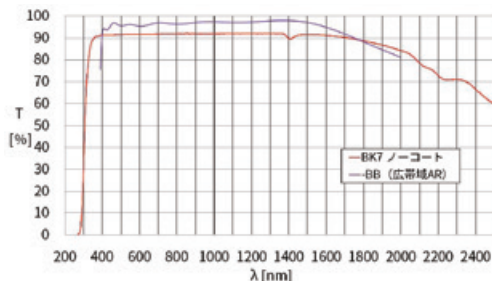
▼SLB-BB



▼WBMA-BB



▼透過率波長特性（参考データ：SLB-BB）



サステナビリティ活動

能登工場の太陽光パネルの運転を開始しました。



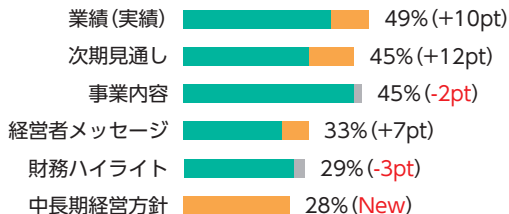
当社は、国内各拠点に再生可能エネルギーを導入する等、省エネ対策に取り組んでいます。2024年8月には、能登工場（石川県志賀町）の屋上に設置した太陽光パネル975枚の運転を開始しました。この結果、能登工場全体の年間消費電力における再生可能エネルギーによる電力の比率は約25%程度を見込んでおり、CO₂排出量削減への貢献を期待しています。その他、工場敷地内に小型の風力発電機と蓄電池も設置しました。今回設置した太陽光パネル等は、非常用電源等、BCP対策としての役割も担っています。

株主様アンケート結果のご報告

株主様アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございました。

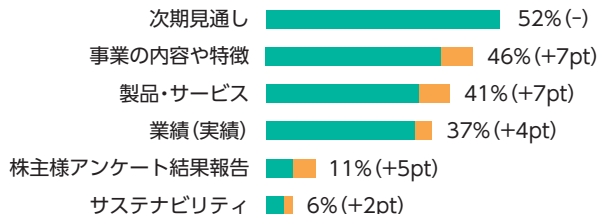
第49期報告書で実施したアンケートは、当社の全株主様5,683名（2024年5月31日時点）の約3%に相当する174名の株主様からご回答いただきました。ご協力いただき誠にありがとうございました。いただきました貴重なご意見等を今後のIR活動及び事業活動等に活かしてまいります。アンケートの一部をご紹介します。

● 中心적으로ご覧になった掲載内容



※括弧内は、対第48期通期比

● 充実を期待する掲載情報



※括弧内は、対第48期通期比

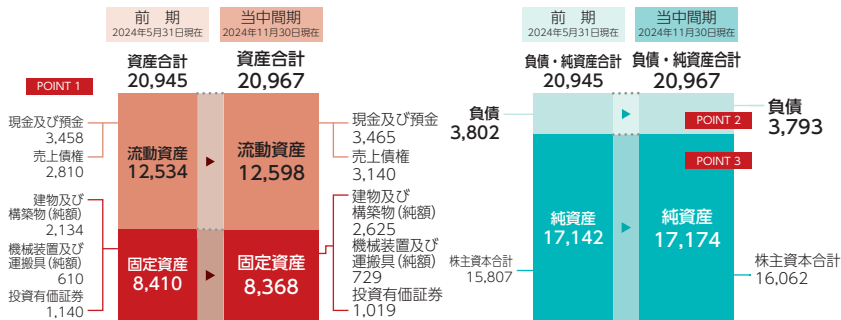
IR担当者からひとこと

株主様アンケートの実施結果、「中心적으로ご覧になった掲載内容」及び「充実を期待する掲載内容」の両方の設問において、「次期見通し」が上位となりました。世界各国で地政学的リスクが高まっている他、自然災害の多発、半導体等を中心とした一部産業分野の回復遅れ等、弊社を取り巻く事業環境の変動が激しいため、弊社の中長期での企業価値向上のストーリーへの期待が高まったことなどが背景にあると考えております。このような株主様のご意見を踏まえて、今回の「第50期中間報告書」では、「業績見通し（本紙3ページ）」の記載内容を拡充させていただきました。今後も、株主様の声に真摯に向き合い、対話を重視したIR活動を進めることで、当社に対するご理解を深めていただくとともに、信頼関係の構築に努め、弊社企業価値に対する適正なご評価を目指してまいります。

連結財務諸表

連結貸借対照表の概要

(単位：百万円)



POINT 1

資産の変動

流動資産は、受取手形及び売掛金、仕掛品、商品及び製品がそれぞれ増加し、有価証券、原材料及び貯蔵品がそれぞれ減少したこと等により前期末比で0.5%増加しました。固定資産は、米子会社の新事務所及び工場の完成により建物及び構築物（前期末の建設仮勘定からの振替を含む）が増加し、投資有価証券の減少等により前期比で0.5%減少しました。

POINT 2

負債の変動

流動負債は、未払法人税等、短期借入金、支払手形及び買掛金がそれぞれ増加し、電子記録債務、災害損失引当金がそれぞれ減少したこと等により前期末比で2.6%増加しました。固定負債は、長期借入金の減少等により前期末比で8.0%減少しました。

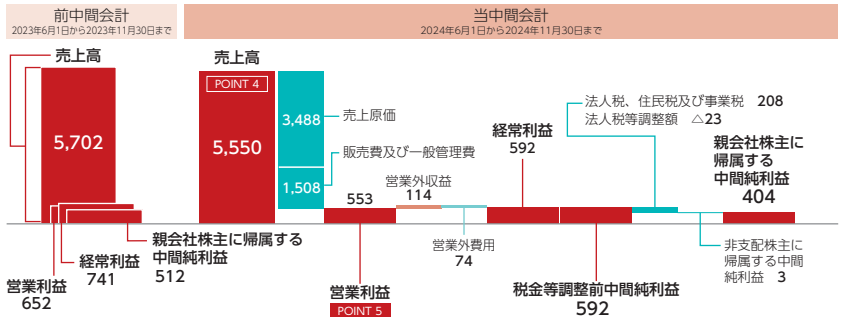
POINT 3

純資産の変動

純資産は、前期末比で0.2%増加し、自己資本比率は、81.4%となりました。

連結損益計算書の概要

(単位：百万円)



POINT 4

売上高の動き

売上高は、前年同期比で2.7%減となりました。要素部品事業は、バイオ業界向けは軟調に推移したものの、半導体業界向け及び海外地域での持ち直しの動き等を背景に、総じて横ばいにて推移しました。システム製品事業は、FPD向けの一部の大口顧客向けの在庫調整により低調に推移しました。

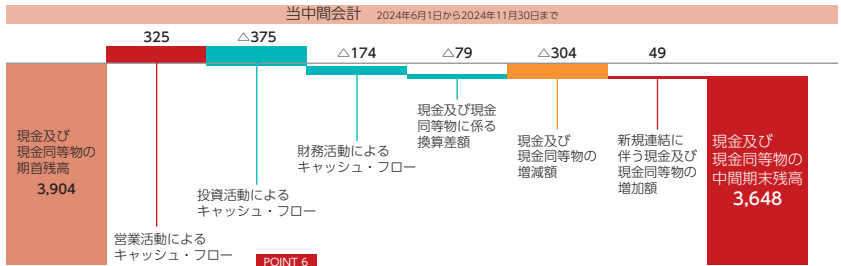
POINT 5

営業利益の動き

営業利益は、人的投資（労務費）の増加、新工場棟の稼働開始等による減価償却費の増加等により売上総利益率がわずかに低下し、試験研究費の一部先送りや広告宣伝費の減少等があったものの、人的投資（人件費）の増加、支払手数料の増加等により販売管理費が横ばいにて推移し、前年同期比で15.2%減となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：百万円)



POINT 6

キャッシュ・フローの状況

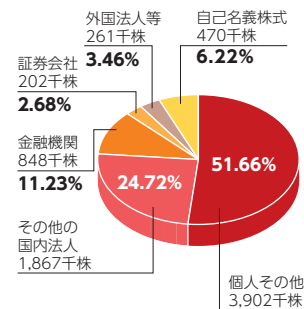
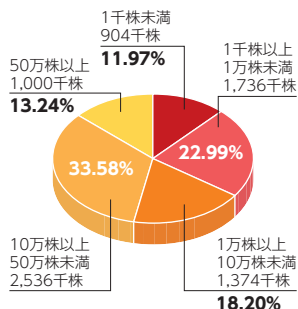
営業CFは、売上債権の増加や災害損失引当金の支払による減少等があったものの、税金等調整前中間純利益の獲得等により、資金が増加しました。

投資CFは、有形固定資産の取得による支出等により、資金を使用しました。

財務CFは、短期借入金の純増額により資金を獲得し、配当金の支払、長期借入金の返済による支出等により、資金を使用しました。



(注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。
3. 持株比率は、自己株式(470,450株)を控除して計算しております。



(注) 1. 所有株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、小数点第3位を切り捨てて表示しております。
3. 自己株式(470,450株)を含んでおります。

社 名	シグマ光機株式会社		
本 社	埼玉県日高市下高萩新田17番地2		
設 立	1977年（昭和52年）4月		
資 本 金	26億2,334万円		
従業員数	376名		
役 員	代表取締役社長	近 藤 洋 介	
	取 締 役	石 井 康 之	
	取 締 役	多 幡 能 徳	
	取締役（社外）	小 澤 勉	
	取締役（社外）	野 崎 誠	
	取締役（社外）	松 尾 祐美子	
	取締役（社外）	セツジイヨン	
	常勤監査役（社外）	上 野 健 司	
	監査役（社外）	南 雲 幸 一	
	監査役（社外）	熊 崎 美 杉	

(注) 社外取締役 野崎誠氏、松尾祐美子氏及び
セットジイヨン氏、社外監査役 上野健司氏
及び熊崎美杉氏の5氏は独立役員であります。

- 本社・日高工場 ● 東京本社 ● 大阪支店
● 九州営業所 ● 能登工場 ● 技術センター

- OptoSigma Corporation
- OptoSigma Europe S.A.S.
- OptoSigma Southeast Asia Pte. Ltd.
- OptoSigma Germany GmbH
- 上海西格瑪光機有限公司
- LMS株式会社
- タックコート株式会社

当社の中間報告書は、「UDフォント」を採用しております

視認性、判読性に優れたユニバーサル
デザイン(UD)書体を使用し、弱視・老
眼等視力の低下にお悩みの方にも読
みやすいよう配慮をしております。

文字使用例 (従来)

S 3 6 ▶ S 3 6

株主メモ

事業年度 毎年6月1日から翌年5月31日まで
定時株主総会 毎年8月開催
基準日 定時株主総会 毎年5月31日
期末配当金 毎年5月31日
中間配当を行う場合は、毎年11月30日

単元株式数 100株
公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
電子公告URL <https://www.sigma-koki.com/>

【株式に関する住所変更等のお届出及びご照会について】

証券会社の口座をご利用の場合は、三井住友信託銀行株式会社ではお手続きができませんので、取引証券会社へご照会ください。証券会社の口座のご利用がない株主様は、下記の【特別口座について】をご確認ください。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
事務取扱場所 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  **0120-782-031** (通話料無料)
(インターネット ホームページURL)
<https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency/>

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、みずほ信託銀行株式会社に口座(特別口座といます)を開設しております。左記株主名簿管理人とはご照会先及び住所変更等のお届出先が異なりますのでご注意ください。

〈特別口座に関するご照会先〉

(特別口座 口座管理機関) みずほ信託銀行株式会社
(郵便物送付先) 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)  **0120-288-324** (通話料無料)

株主の皆様の声をお聞かせください



当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。

右記URLにアクセスいただき、
アクセスキー入力後に表示される
アンケートサイトにてご回答ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー 77131XaG



スマートフォンから
カメラ機能でQRコードを読み取り

QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクサスの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」  koekiku@pronexus.co.jp



シグマ光機株式会社

東京本社 東京都墨田区緑1-19-9
TEL.03-5638-8221 (総務部)

